

書評

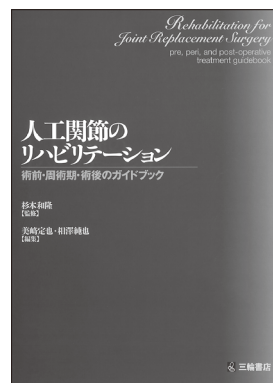
杉本和隆(監修)

美崎定也・相澤純也(編集)

人工関節のリハビリテーション 術前・術後・術後のガイドブック

評者 加藤 浩

(九州看護福祉大学大学院)



関節軟骨や関節構成体の退行変性によって起こる変形性関節症は、国内では関節リウマチの約10倍の700万人から1,000万人の患者がいると推定されている。特に変形性膝関節症においては、毎年90万人が新たに発病しているとの報告もあり、変形性股関節症・変形性膝関節症の患者の治療に携わる理学療法士は少なくないであろう。手術療法としては関節温存手術と人工関節置換術の2つがあるが、ご存じのとおり日本の急性期病院においては、在院日数の短縮が加速化しており、今後、人工関節置換術の治療選択はますます重要視されるであろう。

そのような社会情勢のなか、苑田会人工関節センター病院では、なんと1,000件以上/年(2014年実績)の手術件数の実績があり、優れた術後成績を残している。この数値は約100件/月のペースで手術を行っていることを意味しており、人工関節置換術に関しては日本屈指の病院の一つと言える。今、その病院の医師、理学療法士、看護師が中心となり、これまでの経験とノウハウ(技術・知識)をそれぞれの専門的立場から、リハビリテーションの視点で整理しまとめ上げられたのがこの書籍である。

本書は大きく4つの章から構成されている。第1章では変形性股関節症を取り上げ、①疾患の特徴、②治療の概要、③人工関節全置換術と術後管理、④術前の

外来リハビリテーション、⑤術前の入院リハビリテーション、⑥術後の入院リハビリテーション、⑦外来フォローの順に理学療法士が知っておくべき事項が時系列で詳細に解説されている。特に手術手技、疼痛管理、看護ケアなどは、その後の理学療法を実践していくうえで大変参考になる。また、全体にわたり図表が多用されており、内容を深く理解するための工夫(「注意点」、「エキスパートのコツ」、「文献」)も満載で、エキスパートの集団が執筆する書籍は、やはり一流だと感じた。第2章では変形性膝関節症が取り上げられ、上記と同様の流れで解説されている。第3章ではJOA hip scoreなど当該疾患に代表的な評価尺度の説明と実際の評価用紙が掲載され、第4章では患者指導用のパンフレットの作成例が紹介されている。まさに人工関節のリハビリテーションに関心のある臨床諸家にとっては珠玉の一冊であることは間違いない。臨床諸家は言うまでもないが、これから養成校や臨床実習に出ようとしている学生諸君にもぜひ、お薦めしたい1冊である。この書籍が人工関節リハビリテーションのスタンダードになることを祈念したい。

● B5判・250頁・2色刷

定価：本体4,600円＋税

三輪書店刊、2015年